

〈単元の指導計画〉

全5時間程度 3年：社会科（公民的分野）

授業日時	時間数	学習内容	生徒の活動	学習課程
9月30日（水） 2時間目 9:40～10:30	2時間	【くらしと経済】 私たちの 消費生活	・消費生活が多様に変化していることを知り、賢い消費者になるためにはどうしたらよいかを考える。	・教科書 ・ワークシート
10月7日（水） 2時間目 9:40～10:30		家計の 収入と支出	・家計の成り立ちを理解して、家計が社会の経済活動と結びついていることに気づく。	
11月12日（木） 4時間目 11:25～12:15	1時間	【くらしと経済】 消費者として 経済を考える①	・30歳代のライフプランづくりを通して、生活設計とマネープランを体験する。	・ワークシート ・教材 「生活設計・マネープランゲーム」
11月19日（木） 5時間目 13:10～14:00	1時間	【くらしと経済】 消費者として 経済を考える②	・前時の体験から気づいたこと、考えたことを発表・共有する。 ・生活設計に必要な公的制度は何かを考える。	・教科書 ・ワークシート
12月22日（火） 3時間目 11:25～12:10	1時間	【くらしと経済】 企業と家計を つなぐ金融	・金融のしくみや役割、自分との関わりについて理解を深める。	・教科書 ・ワークシート ・教材 「知ろう！学ぼう！ お金の使い方」 「あなたと銀行のかかわり」

1 時間目 9 月 30 日（水）2 時間目 9:40～10:30

1. 本時の目標：私たちの生活に必要な財やサービスの生産・流通・消費のしくみ全体が経済であることを理解するとともに、消費生活が多種多様になっていることを知り、賢い消費者になるためにはどうしたらよいかを考える。

2. 本時の評価

	学習活動における 具体的な評価基準（B）	（A）「十分満足できる」	（C）の生徒への手立て
断 思 考 ・ 表 現 判	・どちら（の商品）を選択するかを考え、その理由を説明している。	・どちら（の商品）を選択するかについて、複数の理由を説明している。	・それぞれを選択した場合、どのようなメリットがあるか、考えられるよう支援する。

3. 本時の展開

過程 (分)	学習項目	学習活動	指導上の留意点及び評価
(5分) 導 入	・消費の種類について確認	<ul style="list-style-type: none"> ◆資料を見て、「財」「サービス」に分類する。 ・「財」目に見える形あるもの（消費財・耐久消費財） ・「サービス」財以外のもの 	・財とサービスの分類を通して、私たちが多くものを消費しながら暮らしていることに気付かせる。
展 開 (40分)	賢い消費者になるためにはどうすればよいだろうか？		
	<ul style="list-style-type: none"> ・経済について確認 ・賢い消費者になるために 	<ul style="list-style-type: none"> ◆経済とは 私たちの生活に必要な財やサービスの生産・流通・消費のしくみの全体 ・現代のくらしは世界中に広がる経済のつながりの中に成り立っている。 ◆どちら（の商品）を選択するか考え、理由を説明する。 ・携帯電話を選ぶなら… ①通話のみのガラケー ②機能がたくさんついたスマホ ・その時のキャッシュバックサービス ①今すぐもらう 1000 円。 ②1 年後にもらう 2000 円。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは何がほしいかによって商品を選ぶとともに、どちらに価値があるかを見極めて選ぶことに気付かせる。 □どちら（の商品）を選択するかを考え、その理由を説明している。 【思考・判断・表現】（ワークシート）
(5分) ま と め	・消費者を守るためのしくみ	◆消費者の生活を守るために制定された法律や、政府の機関について確認する。	

1. 本時の目標：家計の成り立ちを理解して、家計が社会の経済活動と結びついていることに気づくとともに、家計管理をするうえで大切なポイントについて理解する。

2. 本時の評価

	学習活動における 具体的な評価基準（B）	（A）「十分満足できる」	（C）の生徒への手立て
理解 知識	・家計のしくみを理解し、家計管理をするうえで大切なポイントを説明している。	・家計管理をする上での大切なポイントを複数の具体例を挙げながら説明している。	・「バランスシート」を示して、収入と支出・貯蓄の関係を理解できるように支援する。

3. 本時の展開

過程 (分)	学習項目	学習活動	指導上の留意点及び評価
(5分) 導入	・「家計」について確認	◆家計とは 個人や家族が消費生活を営む単位 収入と支出から成り立つ。	・家計のしくみを図に表すことを伝え、その図を使って収入と支出の関係を説明するように指示する。
展開 (40分)	家計管理のポイントについて考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家計の特徴 収入の種類 支出の種類 収支のバランスの重要性 お金を借りるとは 	<ul style="list-style-type: none"> ◆30年前の家計と現在の家計を比較 「交通・通信費」の増加 →携帯電話の普及 「税金・社会保険料」の増加 →消費税、介護保険料の導入 ◆「収入」「支出」の種類の確認 ・「勤労所得」、「個人業主所得（事業所得）」、「財産所得」、「移転所得」 ・「消費支出」、「非消費支出」、「貯蓄」 収支のバランスが取れないと、お金を借りる必要が出てくる。 ◆お金を借りるとは ・担保が必要 ・利息分多く返す必要がある ・消費者金融では、銀行より利息が高い場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入を左、支出を右、貯蓄も右に置いた「バランスシート」を示し、収入と支出・貯蓄の関係を図解できるように指導する。 ・支出が収入を上回る「バランスシート」を図示し、支出に対して足りない分が借り入れになることが分かるように指導する。
(5分) まとめ	・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆家計管理のポイントをまとめる。 ・収入と支出のバランスを考えると家計管理のポイント 	<ul style="list-style-type: none"> □家計のしくみを理解し、家計管理をするうえで大切なポイントを説明している。 【知識・理解】（ワークシート）

3 時間目 11 月 12 日 (木) 4 時間目 (11:25~12:15)

1. 本時の目標：ライフイベントが最も多くなる 30 歳代のライフプランづくりを通して、自らの生活に必要な選択について考える。

2. 本時の評価

	学習活動における 具体的な評価基準 (B)	(A)「十分満足できる」	(C) の生徒への手立て
断 ・ 表 現	・ライフプランづくりを通して、 自らの生活に必要な選択を、理 由を挙げながら説明している。	・選択した理由を説明する際に、 複数の具体例を挙げながら説明 している。	・選択の場面で、いくつかの選択 肢を示し、選んだ理由を考える ように支援する。

3. 本時の展開

過程 (分)	学習項目	学習活動	指導上の留意点及び評価
導 入 (3 分)	・消費生活について の重要語句を確認	◆「家計の収入と支出」で学習したこ とを振り返る。 家計・所得・実支出 消費支出・非消費支出・貯蓄	・この後の取組みを、4 人 1 班で行うこ とを伝え、班長を中心に班の意見をまと めるように指示する。
展 開 (4 2 分)	夢を実現しながら安心して生活するためのライフプランを考えよう		
	・生活設計・マネー プランゲーム体験	◆30 歳代のライフプランづくりを行う。 「収入」「基本生活支出」を選択し、そ の条件で貯蓄額を算出する。 ◆ライフイベントでの選択を判断し、そ れぞれの条件で収支を計算し、貯蓄額 を算出する。 「結婚 (1 人働き・共働き)」 「子育て (出産) いない~3 人」 「住居購入」「自動車購入」 「イベント&アクシデント」(偶然)	・収入の高低は、就職のしやすさ、仕事以 外の時間の余裕の有無、仕事の責任の軽 重と関係することを伝える。 ・貯蓄額がマイナスにならないようにする ために、欲しいものすべてが手に入らな いということを踏まえて選択するよう に指導する。
(5 分) ま と め	・30 歳代のまとめ	◆30 歳代の人生体験のまとめ 貯蓄額・思い出ポイント ◆ライフプランづくりを通して行った選 択について、理由を整理する。	□ライフプランづくりを通して、自らの生 活に必要な選択を、理由を挙げながら説 明している。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)

1. 本時の目標：生活設計・マネープランゲーム体験・考察を通して、安心して生活をするための公的制度について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

2. 本時の評価

	学習活動における 具体的な評価基準 (B)	(A)「十分満足できる」	(C) の生徒への手立て
思考・判断・表現	・安心して生活するために必要とされる公的制度について、理由を挙げながら説明している。	・公的制度について、考えたことを複数説明している。	・選択の場面と関連して、どんな公的支援があれば安心して生活できるか考えられるように支援する。

3. 本時の展開

過程 (分)	学習項目	学習活動	指導上の留意点及び評価
(10分) 導入	・前時のまとめ 振り返り	◆30 歳代の貯蓄額・思い出ポイントを踏まえ、班ごとに気づいたことや感想を話し合い、まとめる。	・生活設計・マネープランシートに話し合った結果を記入するよう指示する。 ・各班の結果を黒板に掲示する。
展開 (35分)	・生活設計に必要な公的制度は何かを考える	◆貯蓄額がマイナスにならないように、どのような選択を行ったか発表する。 ○住居を購入しない (ランクを下げる) ○自動車を買わない (ランクを下げる) ○結婚しない ○子どもの人数 (子育てにかかる費用)	・ライフイベントには、お金がかかることを理解したうえで、安心して人生の選択ができるようになることの大切さを伝える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 安心して生活するために必要な公的制度は何か？ </div> ・公的制度の現状について確認 ・支援や制度の原資は税金	○教育費の支援制度 ○住宅購入の支援制度 など ◆現在ある公的制度の確認 「子ども手当」、「住宅控除」 ◆支援や制度の原資は税金であること、税金の使い道 (税金の再配分) を決めているのは国 (国会議員) であることを知ること、18 歳から選挙権を持つことの責任について理解する。	□安心して生活するために必要な公的制度について説明するとともに、それを選んだ理由について説明する。 【思考・判断・表現】(ワークシート) ・公的支援や制度は、自分たちが納める税金で成り立っていることを知る。 ・税金の再配分を決める国 (国会議員) を自分たちが選ぶことの責任について気付くよう指導する。
(5分) まとめ	・まとめ	◆公的支援や制度について自分自身の生活とお金との関わりを考えると、国の制度を考える、選挙の投票行動につながることに気づき、考えるきっかけとする。	

1. 本時の目標：金融のしくみやはたらき、日本銀行の役割を理解する。

2. 本時の評価

	学習活動における 具体的な評価基準（B）	（A）「十分満足できる」	（C）の生徒への手立て
理解 知識	・日本銀行の3つの働きと、物価の安定を図るための金融政策の関係について説明している。	・金融政策について、「金融緩和」と「金融引き締め」の2点から説明している。	・世の中に出回る通貨の量が変わればどのような変化が起きるか考えられるよう支援する。

3. 本時の展開

過程 (分)	学習項目	学習活動	指導上の留意点及び評価
(5分) 導入	・「金融」とは何か	◆金融という言葉の意味を理解する。 ・お金を融通する＝金融	・スライドを示しながら、金融のしくみについて指導する。
展開 (40分)	銀行の業務が、私たちの生活とどう関わっているのだろうか？		
	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行の業務について「預金」と「貸出」 ・「日本銀行」とは ・「日本銀行」と「銀行」の関係 ・社会における銀行の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ◆金融機関の代表である「銀行」は、「預金」と「貸出」の業務から利益を得ていることを理解する。 ◆日本銀行の3つの働きを理解する 銀行の銀行、政府の銀行、発券銀行 ◆日本銀行の金融政策を理解する。 物価の安定を図り、景気変動を調整する役割について ◆「日本銀行」と「銀行」の関係 銀行が貸し出せるお金が無くなったらどうになってしまうのか考える。 →日本銀行は最後の貸し手の役割 ◆「銀行」が資金の橋渡しを行うことで、豊かな社会が成り立っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出金利と預金金利の差額が銀行の収入の基本になっていることを説明する。 □日本銀行の3つの働きと、物価の安定を図るための金融政策の関係について、多角的に説明している。 【知識・理解】（ワークシート） →市場に流通する通貨量の調整により、金融機関の金利の上下を調整する ・預金されたお金を、必要としている人や企業に貸し出すことで、経済発展のために有効に活用されるようにしているのが銀行であることを指導する。
(5分) まとめ	・まとめ	◆経済社会の発展には、金融機関の働きが不可欠であることを理解する。	